

鳥取県における環境放射能水準調査結果（令和6年度）

【原子力環境センター】

戸野 菜保子、松本 昭範

1 はじめに

環境放射能調査は、一般環境の自然放射線レベルと、人工的な放射線源により付加される放射線レベルの調査を行い、被ばく線量の推定・評価を目的に行われている。人工的な放射線源としては、原子力発電所、再処理施設等の原子力施設のほか、過去に行われた大気圏内核実験に伴う放射性降下物等がある。

国内における環境放射能調査は、原子力施設が周辺の環境に与える影響を把握するために行われている調査と、全国47都道府県で行われている環境放射能水準調査に大別される。後者はフォールアウトなどによる放射性物質の国内への影響を調査することを目的として行われてきたが、近年は原子力施設の周辺への影響を正確に評価するため、また国内原子力災害による影響を把握するための比較データとして利用される。

ここでは、令和6年度（2024年度）に本県で行った環境放射能水準調査結果を報告する。なお、本調査は国（原子力規制庁）からの委託により実施した。

2 調査方法

2.1 調査対象

調査対象は、定時（午前9時）採取の降水（以下「定時降水」という。）、大気浮遊じん、大型水盤による降下物（1か月毎採取）、陸水（年1回採取）、土壌（表層0～5 cm、下層5～20 cm）、農畜産物（ホウレンソウ、ダイコン、牛乳）、海産生物（サバ）及び空間放射線量率である。大気浮遊じんについては、1か月につき2日間（連続48時間）を2回採取し、これを3か月分（12日間採取）まとめたものを1試料とした。各試料の採取地点、空間放射線量率の測定地点を表1に示す。

2.2 測定方法

定時降水については、全ベータ放射能測定を行い、そのうち、測定値が計数誤差の3倍を上回る試料について、ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線放出核種分析を行った。環境試料（大気浮遊じん、降下物、陸水、土壌、農畜産物及び海産生物）については、ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線放出核種分析を行った。空間放射線量率についてはモニタリングポストによる連続測定を行い、1時間

表1 調査項目等

試料名		試料採取場所 (地点名等)	
環境試料	定時降水	湯梨浜町南谷	
	大気浮遊じん		
	降下物		
	陸水		上水（蛇口水）
	土壌	0～5 cm 5～20 cm	倉吉市大原
	農畜産物	ホウレンソウ	鳥取市里仁
ダイコン		倉吉市大谷 ^{注)}	
牛乳		琴浦町保	
海産生物	サバ	境港市（近海物）	
空間放射線量率 (モニタリングポスト設置場所)		鳥取市東町 湯梨浜町南谷 琴浦町赤碓 大山町末長 南部町法勝寺 日野町根雨	

注) R5年度に倉吉市福守町から地点変更した。

値で評価した。各項目における試料の採取、前処理及び測定方法については「環境放射能水準調査委託実施計画書（令和6年度）」¹⁾及び放射能測定法シリーズ（文部科学省及び原子力規制庁により制定）に準拠した。

2.2.1 全ベータ放射能測定

放射能測定法シリーズ²⁾に基づき、ベータ線自動測定装置（JDG-5200（株）日立製作所製）を用いた。

2.2.2 ガンマ線放出核種分析

放射能測定法シリーズ³⁾に基づき、ゲルマニウム半導体検出器（GEM30-70 セイコー・イーゲーアンドジー（株）製）を用いて、測定時間80,000秒（大気浮遊じん、降下物及び海産生物は100,000秒）で測定を行った。

2.2.3 空間放射線量率

放射能測定法シリーズ⁴⁾に基づき、NaI(Tl)シン

チレーション検出器を装備したモニタリングポスト（MAR-22（株）日立製作所製）を用いた。

3 調査結果

3.1 定時降水の放射能測定

表2に定時降水中の全ベータ放射能測定結果を示す。採取した107試料の全ベータ放射能測定の結果、12試料からベータ線が検出された。これら12試料についてゲルマニウム半導体検出器を用いてガンマ線放出核種分析を行った結果、人工放射性核種は検出されなかった。

3.2 環境試料中のガンマ線放出核種分析

表3にガンマ線放出核種分析の結果を示す。海産生物（サバ）から ^{137}Cs が検出されたが、食品中の放射性セシウムの基準値（100 Bq/kg）を大きく下回った。サバについては1976年から継続して調査を行っており、これまでも ^{137}Cs が検出されているが、令和6年度の値は過去の変動の範囲内であった。このほかの試料からは、人工放射性核種は検出されなかった。

3.3 空間放射線量率

県内6地点に配置したモニタリングポストの令和6年度の測定結果（各月の1時間値の最高、最低及び平均値）を表4及び図1に示す。

湯梨浜町のモニタリングポストは、令和5年3月に衛生環境研究所屋上（10.2 m高）から原子力環境センター敷地内（1.0 m高）に移設・更新し、地面からの天然放射性核種の影響が大きくなったため、令和4年度以前に比べ令和5年度は平均値が $0.012 \mu\text{Gy/h}$ 高くなり、令和6年度も同程度であった。また、6月の測定値（ $0.125 \mu\text{Gy/h}$ ）が移設後の最高値（ $0.117 \mu\text{Gy/h}$ ）を超過したが、当日は梅雨前線が本州付近に延びて日本海側中心に大雨となり、

空間放射線量率は降雨に伴い上昇しその後2時間程度で低下していたことから、自然変動によるものと考えられた。その他の測定地点は、過去の測定結果と同程度であった。

4 まとめ

令和6年度の鳥取県における環境放射能水準調査として、全ベータ放射能測定、環境試料中のガンマ線放出核種分析及び空間放射線量率の測定を行った。

定時降水中の全ベータ放射能測定において、12試料からベータ線が検出されたが、人工放射性核種は検出されなかった。

環境試料中のガンマ線放出核種分析において、海産生物のサバから ^{137}Cs が検出されたが、過去の変動の範囲内であった。その他の環境試料（大気浮遊じん、降下物、陸水、土壌、農畜産物（ホウレンソウ、ダイコン、牛乳））からは、人工放射性核種は検出されなかった。

空間放射線量率の測定では、湯梨浜町において降雨による過去の最高値超過がみられた。また、検出器の移設により令和5年度から平均値が高くなったが、令和6年度は令和5年度と同程度であった。その他の測定地点においても、特に異常は認められなかった。

5 参考文献

- (1) 原子力規制庁監視情報課放射線環境対策室：環境放射能水準調査委託実施計画書（令和6年度）
- (2) 文部科学省：放射能測定法シリーズ1全ベータ放射能測定法（昭和51年9月）
- (3) 原子力規制庁：放射能測定法シリーズ7ゲルマニウム半導体検出器による γ 線スペクトロメトリー（令和2年9月）
- (4) 原子力規制庁：放射能測定法シリーズ17連続モニタによる環境 γ 線測定法（平成29年12月）

表2 定時降水中の全ベータ放射能測定結果

採取年月	降水量 (mm)	測定数	検出数	放射能濃度 (Bq/L)	降下量 (MBq/km ²)
R6.4月	181.7	10	1	ND ^{注1)} ~2.7	ND~42.0
5月	103.8	8	0	ND	ND
6月	156.8	7	0	ND	ND
7月	337.0	11	0	ND	ND
8月	71.8	5	0	ND	ND
9月	98.5	4	0	ND	ND
10月	295.3	10	0	ND	ND
11月	291.6	11	0	ND	ND
12月	130.1	10	2	ND~2.6	ND~12.9
R7.1月	117.2	10	3	ND~5.4	ND~78.5
2月	100.8	12	6	ND~3.7	ND~39.8
3月	181.7	9	0	ND	ND
年間値	2,066.3	107	12	ND~5.4	ND~78.5

注1) ND：検出されず（測定値が計数誤差の3倍を下回った場合）

表3 環境試料中のガンマ線放出核種分析結果

調査対象	採取年月日	検体数	¹³⁷ Cs	その他の人工放射性核種	単位
大気浮遊じん	R6. 4. 8～R7. 3. 19	4	ND ^{注1)}	ND	mBq/m ³
降下物	R6. 4. 1～R7. 4. 1	12	ND	ND	MBq/km ²
陸水（蛇口水）	R6. 6. 4	1	ND	ND	mBq/L
土壌	0～5 cm	1	ND	ND	Bq/kg 乾土
			ND	ND	MBq/km ²
	5～0 cm	1	ND	ND	Bq/kg 乾土
			ND	ND	MBq/km ²
ホウレンソウ	R6. 5. 7	1	ND	ND	Bq/kg 生
ダイコン	R6. 10. 28	1	ND	ND	
牛乳	R6. 8. 7	1	ND	ND	Bq/L
サバ	R7. 1. 17	1	0.10 ^{注2)}	ND	Bq/kg 生

注1) ND：検出されず

注2) 過去10年間(H26～R5)の変動範囲は0.10～0.16 Bq/kg 生

表4 空間放射線量率（1時間値）測定結果

（単位：μ Gy/h）

	鳥取市 （鳥取県庁）			湯梨浜町 （原子力環境センター）			琴浦町 （きりりタウン赤碓）		
	最高値	最低値	平均値	最高値	最低値	平均値	最高値	最低値	平均値
R6. 4月	0.091	0.055	0.059	0.091	0.071	0.074	0.090	0.055	0.060
5月	0.078	0.055	0.059	0.090	0.071	0.073	0.085	0.055	0.059
6月	0.103	0.055	0.060	0.125	0.071	0.074	0.113	0.055	0.059
7月	0.087	0.055	0.059	0.111	0.070	0.073	0.087	0.054	0.057
8月	0.077	0.056	0.060	0.099	0.071	0.073	0.086	0.055	0.058
9月	0.070	0.056	0.059	0.082	0.071	0.073	0.079	0.055	0.058
10月	0.092	0.055	0.060	0.115	0.071	0.074	0.108	0.055	0.060
11月	0.093	0.055	0.060	0.107	0.070	0.075	0.104	0.054	0.060
12月	0.101	0.053	0.061	0.099	0.071	0.074	0.097	0.056	0.060
R6. 1月	0.087	0.049	0.060	0.113	0.066	0.075	0.101	0.054	0.061
2月	0.096	0.039	0.056	0.109	0.066	0.074	0.090	0.050	0.059
3月	0.094	0.055	0.060	0.107	0.071	0.074	0.101	0.054	0.061
年間	0.103	0.039	0.059	0.125	0.066	0.074	0.113	0.050	0.059
過去の統計値 ^{注1)}	0.131	0.022	0.061	0.117	0.055	0.074	0.173	0.027	0.060
	大山町 （大山町役場大山支所）			南部町 （南部町役場法勝寺庁舎）			日野町 （西部総合事務所 日野振興センター）		
	最高値	最低値	平均値	最高値	最低値	平均値	最高値	最低値	平均値
R6. 4月	0.078	0.048	0.051	0.072	0.048	0.052	0.079	0.051	0.058
5月	0.068	0.048	0.051	0.071	0.048	0.051	0.080	0.052	0.056
6月	0.109	0.049	0.053	0.098	0.048	0.053	0.103	0.053	0.058
7月	0.079	0.048	0.051	0.075	0.048	0.052	0.090	0.052	0.058
8月	0.063	0.049	0.054	0.069	0.049	0.053	0.097	0.053	0.058
9月	0.059	0.049	0.053	0.071	0.049	0.053	0.066	0.053	0.057
10月	0.082	0.049	0.052	0.102	0.049	0.053	0.082	0.052	0.058
11月	0.096	0.049	0.052	0.093	0.049	0.053	0.083	0.051	0.058
12月	0.087	0.049	0.053	0.084	0.045	0.052	0.087	0.052	0.058
R7. 1月	0.095	0.043	0.053	0.084	0.049	0.053	0.105	0.045	0.056
2月	0.097	0.036	0.049	0.083	0.040	0.051	0.091	0.035	0.051
3月	0.090	0.048	0.053	0.087	0.048	0.053	0.088	0.048	0.058
年間	0.109	0.036	0.052	0.102	0.040	0.053	0.105	0.035	0.057
過去の統計値 ^{注1)}	0.120	0.027	0.053	0.127	0.034	0.054	0.188	0.026	0.058

注1) 過去の統計値：湯梨浜町は機器移設後のR5. 3. 10～R5年度の値で算定。その他地点はH24～R5年度の値で算定。

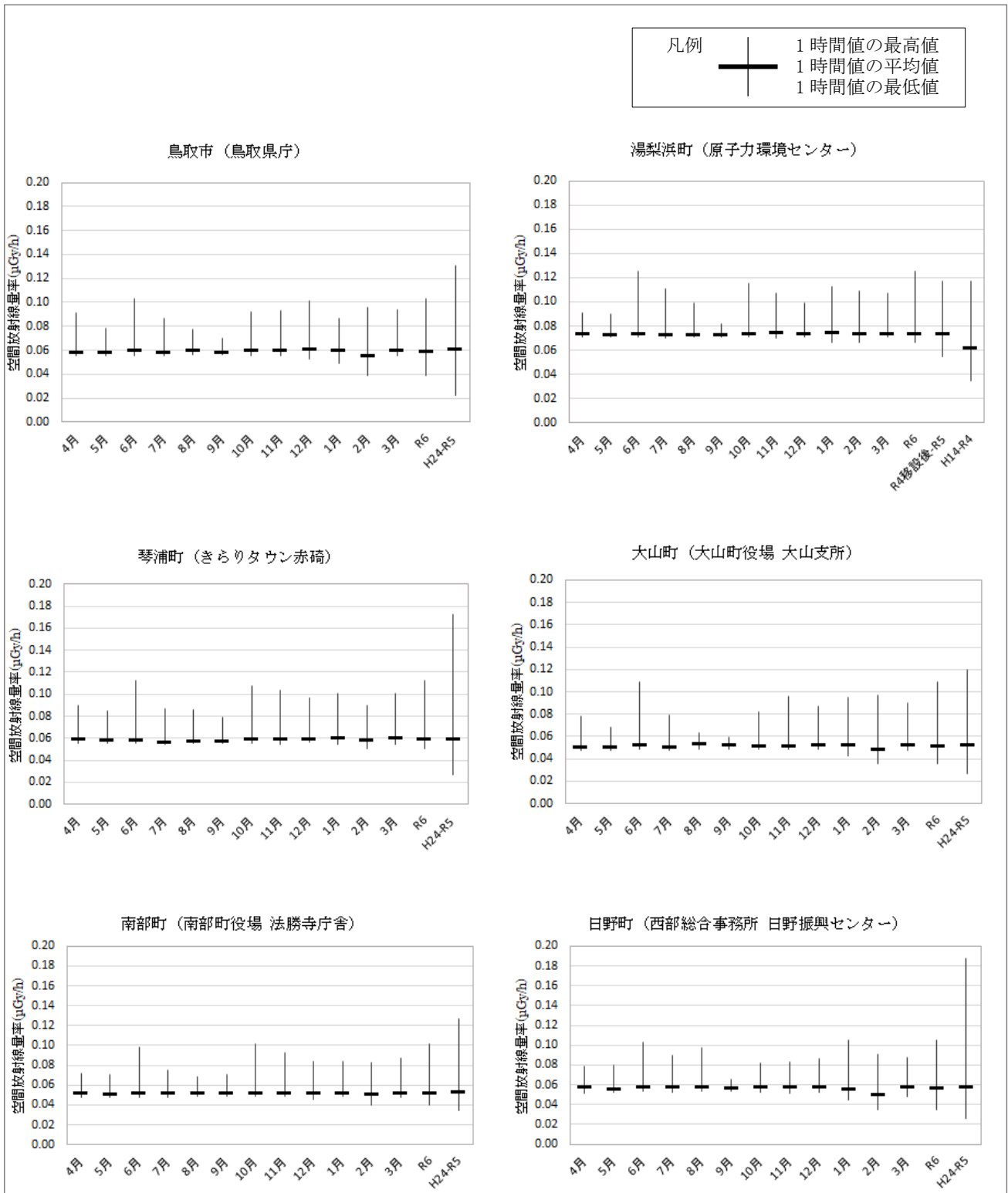


図1 各地点の空間放射線量率の推移